

第1回国土交通省自動運転社会実現本部 議事要旨

日 時：令和8年1月22日（木）13:25～13:50

場 所：中央合同庁舎3号館4階会議室

出席者：金子 恭之 国土交通大臣（本部長）
酒井 庸行 国土交通副大臣
永井 学 国土交通政務官
水嶋 智 国土交通事務次官
廣瀬 昌由 技監
塩見 英之 国土交通審議官
黒田 昌義 大臣官房長
中村 晃之 技術総括審議官
池光 崇 公共交通政策審議官
小島 優 官房審議官（技術）（技術審議官 代理）
鶴田 浩久 総合政策局長
佐々木 正士郎 国土政策局長
中田 裕人 都市局長
杓掛 敏夫 道路局長
五十嵐 徹人 鉄道局長
石原 大 物流・自動車局長
岡野 まさ子 物流統括調整官
河野 順 海事局次長（海事局長 代理）
安部 賢 港湾局長
宮澤 康一 航空局長
日笠 弥三郎 国際統括官
宮川 康平 測地部長（国土地理院長 代理）
木村 典央 観光庁次長（観光庁長官 代理）
高橋 広治 運輸安全委員会事務局長
坂巻 健太 海上保安庁次長（海上保安庁長官 代理）

配付資料：資料1：国土交通省自動運転社会実現本部の設置について

資料2：自動運転を巡る動きについて

資料3：自動運転の普及に伴う社会変容へ

資料4：今後の進め方

概 要：

冒頭、金子本部長より、国土交通省自動運転社会実現本部の立ち上げに係る発言があり、続いて、物流・自動車局及び道路局による資料説明後、締めくくりにあたり金子本部長より指示があった。

○金子本部長からの冒頭発言

「国土交通省自動運転社会実現本部」の立ち上げに当たり、一言申し上げます。

自動運転は、我が国が抱える少子高齢化による深刻な担い手不足を克服し、事故のない安全な自動車交通社会を実現する上で効果的なものであり、今後の我が国にとって必要不可欠なものです。

世界では、米国や中国で多数の事業者により、自動運転タクシーサービス等の実装が進んでおりますが、我が国においても自動運転の分野に国内の自動車メーカーが本格的に参入し始めており、今後も海外の後塵を拝することがないようにしっかり対応する必要があります。

国土交通省では、これまで、自動運転の導入を目指す地方自治体に対して支援を行うとともに、自動運転車両の走行を支援する道路インフラ側の取組みを進めて参りましたが、いよいよ来年 2027 年度には、自動運転タクシーや自動運転トラックなどの社会実装が見込まれています。

私自身、昨年、愛媛県松山市の自動運転バスや日産自動車が開発中の自動運転車に試乗しました。また、本日も、自動運転バス・トラックの取組について説明を伺い、本格的な自動運転サービスが、我が国でも実現間近であることを改めて実感しました。

例えば、私の地元である熊本県には70箇所の「交通空白」がありますが、自動運転サービスの導入によって、病院への通院や買い物などに自由に外出できるようになり、地域の暮らしはより豊かに変わります。このような明るい未来を、私は強く期待しています。このように、自動運転は、我が国の社会課題を解決するための強力な切り札です。

だからこそ、一日も早く本格的な「自動運転社会」を実現しなければなりません。

この決意のもと、国土交通省の総力を挙げて取り組んでいくため、私を本部長とする、国土交通省自動運転社会実現本部を立ち上げることといたしました。

この本部の議論を踏まえ、本格的な「自動運転社会」の早期実現に向けた取組を強力に進めていきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

○金子本部長による指示

第1回「国土交通省自動運転社会実現本部」の締めくくりに当たり、一言申し上げます。

自動運転社会を実現することにより、交通空白の解消など、様々な社会課題を克服することができると改めて実感いたしました。

このため、まずは、物流・自動車局、道路局は、この新しい本部の下で、各局との連携を強化し、自動運転サービスの本格的な社会実装に向けて、全力で取り組んでください。

各局においては、現状にとらわれず、想像力を働かせながら、自らの政策分野で何を成すべきか、前向きに検討を進めてください。

最後に、ここにいる皆さんだけでなく、未来を担う若手の皆さんの意見や創造的な発想も積極的に取り入れながら、国土交通省の総力を挙げて、本格的な「自動運転社会」の早期実現に向けて進んでいきましょう。

以上